



(横須賀)

神奈川・若宮大路周辺遺跡群

わかみやあおじ

1 所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下二丁目

2 調査期間 一九八八年（昭63）四月～一九八九年一月

3 発掘機関 若宮大路周辺遺跡群発掘調査団・鎌倉市教育委員会

4 調査担当者 馬淵和雄

5 遺跡の種類 中世都市

6 遺跡の年代 一二世紀後半～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

若宮大路は、鎌倉市内の中心部を鶴岡八幡宮から海に向かって南北に縦走する、街割りの基幹道路である。治承四年（一一八〇）、源頼朝が鎌倉に入った直後に敷設され、以来その周辺は武士の都鎌倉の中心として繁栄してきた。「若宮大路周辺遺跡群」は文字通りその周辺の遺跡であり、南北は鶴岡八幡宮

前面から一ノ鳥居付近までの一二〇〇m、東西は小町大路から今小路（現在の名称、当時は今大路か）までの約六〇〇mの範囲を占める。

当遺跡内での調査は、二〇〇一年四月現在、立会いも含め約九〇

地点で行なわれている。今回の調査地点（雪ノ下二丁目二一〇番地点）は、その西北域に位置し、若宮大路から西約二五〇m、鶴岡八幡宮からも西南に二五〇mほどの距離にある。ここから西に約一五〇mでこれも南北基幹道路の一本である今小路に行き当たる。約二〇〇m北の山裾には、頼朝入部以前からあつたといわれる「窟堂」がある。また今大路をへだてた西側には、栄西建立の鎌倉五山第三位・寿福寺が存在する。いわば、この地点は窟堂や寿福寺の門前にあたる。また、「吾妻鏡」によれば、寿福寺は頼朝の父義朝の居館跡に建てられたものであり（正治二年（一一〇〇）閏二月二十一日条）、とすれば調査地点は平安時代末期以来、鎌倉の中心に位置していたといつて過言ではない。

地勢的にみれば、この付近は、鎌倉旧市街地西北部に大きく開析された谷戸（「扇ヶ谷」）の入口にあたり、谷から流れ出した湿潤な粘質土が深く堆積して、場所によつては硬い地山面まで4mにもおよぶことがある。

調査した遺構面は上下二枚で、さらに下にも面の存在が確認されていたが、検出されたうちの下層面の遺構状況がきわめて良好であったので、保存のため最下層の面には調査が及んでいない。

かつたので、街割がよくうかがえる。上面・下面とも、浅い掘り込みをもつ板廻いの住居や、掘立柱建物・井戸・ゴミ穴などが多数検出された。また、日用品のほか呪術資料なども多く出土し、都市住民の生活ぶりがよく示されている。面の年代は、上層が一三世紀後半～一四世紀、下層が一三世紀後半とみている。

各木簡の出土状況は次の通りである。(1)は試掘調査時に出土。層位は不明。(2)は下層遺構面検出の溝五八から出土。溝五八は地割溝と考えられる。(3)は下層遺構面地割区画II-4柱穴三四三三出土。

調査区内の東辺中央部にある区画で、浅い掘り込みをもつ町屋住居や掘立柱建物が存在する。ただし、柱穴三四四三一は建物を構成する

ものではない。(4)は上層遺構面地割区画ⅠB-3にある、町屋と考
えられる遺構群の中の土坑四一出土。(5)は上層遺構面地割区画ⅠB
-2bの溝三裏込め出土。(6)は下層遺構面地割区画ⅡA出土。

木簡のほかにも、不動明王と地蔵菩薩の描かれた土師器皿や木製版木などの絵画資料が出土した。呪術資料では、多数の形代のほか

木製面・雛人形などがある。

(1)

157×28×3 0.32

(1)は、調査地点の北約二〇〇mにある窟堂のことであり、本地点は、何らかのつながりを持つことを示している。(3)は、将棋の駒。(4)は、呪符木簡。(5)は、「諸々の難を除く札」の意か。釘で打ち付けられた板の裏に書かれたものであり、呪符として、家屋の入口や梁などに貼られていたのではないだろうか。(6)は、「白米」の意か。容器の中身を表示する、付札のようなものであろう。

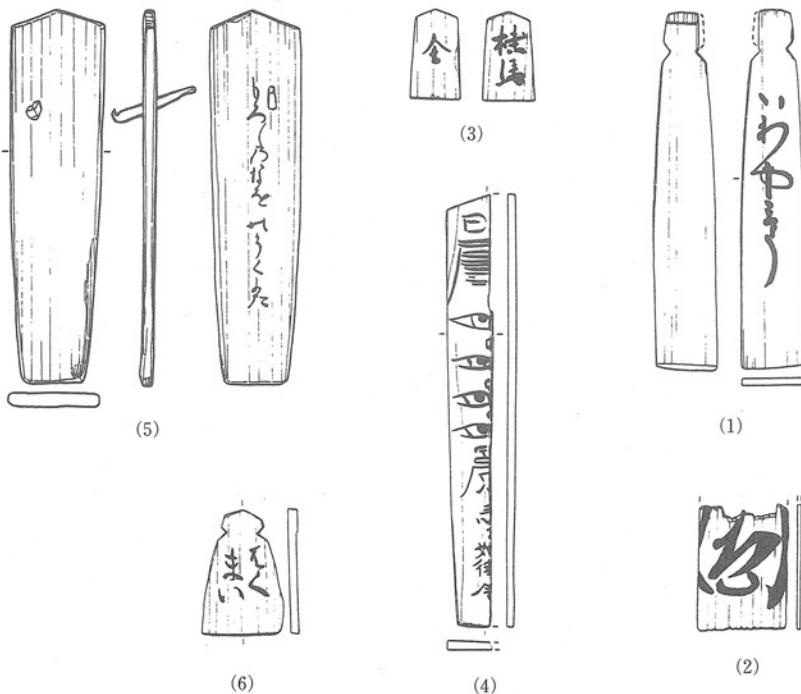
(6) 「ツツツ」

(4) 「符籙」急々如律令」

(3) 桂馬・「金」

9
関係文献
鎌倉市教育委員会「若宮大路周辺遺跡群 雪ノ下一丁目二一〇番
他地点」(鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書)六、一九九〇年)

(馬淵和雄)



(横須賀)

調査地点は鎌倉の市街地の中心に位置しており、若宮大路の東側、鶴岡八幡宮から南に二五〇mの場所に所在する。本遺跡の名称ともなっている「北条小町邸跡」とは、東が横大路、西が若宮大路、邸跡の南西隅付近に位置し

1	所在地	神奈川県鎌倉市雪ノ下二丁目
2	調査期間	一九九九年（平11）一〇月～二〇〇〇年一月
3	発掘機関	北条小町邸跡発掘調査団
4	調査担当者	森 孝子
5	遺跡の種類	中世都市跡
6	遺跡の年代	中世（一三世紀初頭～一四世紀）・近世（一七世紀～一九世紀）
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	